

様式第6号（第6条関係）

（表）

政務活動費収支報告書

令和6年 4月 26日

明石市議会議長

尾倉 あき子 様

会 派 名           スマイル会  
代 表 者 名       家根谷敦子  
経 理 責 任 者 名   家根谷敦子

明石市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和5年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 (単位：円)

科 目	決 算 額	摘 要
政務活動費	880,000	

2 支出 (単位：円)

科 目	決 算 額	摘 要
研究研修費	347,960	視察代等
資料作成費	68,220	コピー機使用料
資料購入費	22,550	書籍購入
広報広聴費	4,000	手話通訳者への謝礼
要請・陳情活動費		
会 議 費	27,660	手話通訳者への謝礼
人 件 費		
通信運搬費	33,641	電話代等
備 品 費	314,160	コピー機リース代
消耗品費	10,371	文房具・コピー用紙等
計	828,562	

3 収支差引額                    51,438円



(裏)

#### 4 活動の成果

今年度は、全国市町村長サミット 2023へ出席しました。1日目の基調講演では、官民連携による地方創生の事例や、経緯、地方公共団体の役割などについて聴講することができ、持続可能な社会を考えたときには、様々なノウハウを熟知している大手企業などからの誘致はありがたい話だと思いがちだが、そうではなく、自分たちの地域を知っている職員等が連携し、人材育成や営業力の効果が大切であることを再認識した。二日目には地域経済の活性化を聴講出来、6市町の現地視察も行い、共通していたことは、地域ブランドを活かしつつも、次のステップに移行しているということだった。伝統に固執するのではなく、発想の転換、時代に合ったブランド作りが大切であり、本市においても、街の発展のためにブランド力を高める取り組みをしていきたいと感じ、大変参考になりました。

その他、神奈川県のカ崎市が独自基準として「かわさき基準」を設け、かわさき基準で認証された福祉製品を購入する際の費用経費を助成する川崎市福祉製品導入促進補助金について川崎市経済労働局イノベーション推進部（川崎ウェルテック）へ視察を行った。開発段階から認証、評価に市が携わっていることも利用者の安心感につながり、かわさき基準を設けたことにより市内の企業の活性化にもつながっているとの報告もあった。本市でも、かわさき基準のような市独自の制度を設け、市民が安心して使用できる福祉用具の開発や認証、購入時の助成などについて制度化していく必要もあり、今後の課題であると感じ、大変参考になりました。

障害者の自立の政治参加をすすめるネットワーク伊勢崎大会へ参加しました。今年の一月一日に発生した能登半島地震の現状を知るとともに、先進事例の視察、障害者施策、防災計画などについての課題を共有化し、研鑽を深めることができた。その他、各議員から全国の各市町での報告を受け、県が提示する福祉のまちづくり条例の基準についても話し合いが行われた。開催地の群馬県では、外国籍の方が多く、日本語指導と学校のバリアフリー化なども視察を行った。障害のある児童や医療的ケア児、外国籍の児童だけの対応ではなく、家族やその地域も共に考えていく必要があり、その中で行政の果たす役割は大きいと感じ、大変参考になりました。

その他、書籍購入や会派室での基本的な電話代等、手話通訳者への謝礼（広報・広聴費、会議費）などで使用致しました。より一層市政に反映できるように努めます。